



教育長 エッセイ

教育長 宮下 和己

World Tsunami Awareness Day

「津波」の「津」は、「船着き場」、「港」の意味があって和歌山でも地名で使われているところがたくさんあります。そして今、「Tsunami(津波)」は、国際語となっています。ある調べによると、そのきっかけとなったのは1946年(昭和21年)のアラスカ付近アリューシャン列島で起きた地震により、ハワイ島まで津波が押し寄せ、日系人の方々が「Tsunami」と呼んだのが新聞の記事になったことで、1949年には、ハワイに太平洋津波警報センター(Pacific Tsunami Warning Center)

が設立されるなど、次第に一般化されていったそうです。

今や「Tsunami」は世界各国で使われており、第70回国連総会本会議(平成27年12月22日)で、11月5日が「世界津波の日(World Tsunami Awareness Day)」として定められました。日本をはじめ142か国が共に提案したもので、この決議により、津波の脅威について関心が高まり、その対策が進むことが期待されています。

さて、11月5日を指定することは、濱口梧陵の「稲むらの火」の故事にちなんでいます。濱口梧陵のことは、文部科学省の道徳副読本「私たちの道徳(中学校)」や本県独自に作成した道徳の教科書というべき「希望へのかけはし」で取り上げられています。梧陵の言葉に「住民百世の安堵を図る」というのがあります。愛する故郷が津波で大きな被害を受けた後、村人の安全と幸福を永久に守る

よう、堤防を築くことにかけての決意の言葉です。この堤防づくりには老若男女を問わず参加し、生きる希望を失いかけた村人に、仕事と生きる力、勇気を与えました。この堤防は、その後の津波にも耐えて人々を守り続け、「自助共助」の精神は今も受け継がれています。

明治以降、濱口梧陵は、国の駅通頭(後の郵政大臣)、故郷では初代県議会議長なども務めました。また私塾「耐久舎」の創設など人材の育成にも尽力しました。近代の幕開けの中で大きな役割を果たした濱口梧陵は、人間愛と郷土愛にあふれた人であり、その生き方から私たちに残したものは、計り知れないものがあります。「11月5日」、時代を経て、濱口梧陵の思いが世界中の人を繋げたのです。子供たちには、津波防災を通じて、濱口梧陵の高い志に触れる機会にしたいと思います。

「24時間子供SOSダイヤル」について



文部科学省では、いじめ問題やその他の子供のSOS全般に悩む子供や保護者等が、いつでも相談機関に相談できるように、都道府県及び指定都市教育委員会が夜間・休日を含めて24時間対応可能な相談体制を整備しています。

24時間

子供SOSダイヤル

なやみ言おう

0120-0-78310

いじめで困ったり、自分や友人の安全に不安があったりしたら、一人で悩まず、いつでもすぐ電話で相談してください。

和歌山県教育委員会事務局 総務課

〒640-8585 和歌山市小松原通1丁目1番地
TEL.073(441)3641 FAX.073(432)4517

和歌山県教育委員会では、今回紹介した内容以外にも、様々な取り組みを行っています。詳しくは、和歌山県教育委員会のホームページをご覧ください。また、皆さまのご意見・ご要望をお待ちしています。

和歌山県教育委員会 [検索](#)



はばたく紀の国 ～教育は今～



放送日時 第1、第3日曜日 10:30～10:50 テレビ和歌山で放送しています。
※すべての番組に手話通訳が付きまます。

今後の放送予定

- 1/15 ●普通科系高校(中高一貫校)におけるキャリア教育
- 2/ 5 ●生きた自然に触れる!～標本作りのススメ～
- 2/19 ●みんな生き生き!学校づくり
～学校経営力・学級経営力向上の取り組みをととして～
- 3/ 5 ●スポーツ好循環の創出とキャンプ誘致
- 3/19 ●「食」を学ぶ!「食」で学ぶ!
～こころもからだも元気な子供を育てる～



定期便 教育の窓



放送日時 第2、第4土曜日 8:45～9:00 和歌山放送で放送しています。

今後の放送予定

- 1/21 ●がん教育について～学校でのがん教育の取り組み～
- 2/11 ●国際人育成プロジェクト
英語によるコミュニケーションが図れる人材を育成するための授業づくり
- 2/25 ●中学生カフェによるこそ
～田辺市生涯学習フェスティバルの取り組みから～

※テレビ・ラジオとも、これまで放送した番組については、和歌山県教育委員会のホームページで公開しています。ぜひ、ご覧ください。